

# 諏訪木遺跡出土土偶形容器速報展



会期：平成26年9月29日（月）～平成27年3月31日（火）

会場：熊谷市立江南文化財センター展示室

## 1 はじめに

熊谷市教育委員会では、平成26年7月から8月にかけて、市内上之地区内に所在する諏訪木遺跡において、個人専用住宅建設に伴い記録保存のための発掘調査を実施しました。

その際に、弥生時代中期後半（今から約2,000年前）と考えられる竪穴住居跡から、土偶形容器がほぼ完全な形で出土しました。この土偶形容器は、仰向けの状態で出土し、その上には弥生土器壺が覆いかぶさっていました。

土偶形容器は、隣接する、弥生時代中期～後期の関東屈指の大規模集落が確認されている前中西遺跡においても、本遺跡と同時期のものが出土していますが、いずれも破片及び欠損しているものです。

近県においては、完全またはほぼ完全な形の土偶形容器の出土が見られますが、埼玉県においては、初めての出土と考えられます。

そのため、江南文化財センターでは、この土偶形容器をいち早く皆様に見ていただきたく、速報展を企画いたしました。

## 2 諏訪木遺跡と発掘調査の成果について

諏訪木遺跡は、市東部の妻沼低地の自然堤防上を中心に広がる、縄文時代後期から江戸時代に至るまでの複合遺跡です。本遺跡を最も特徴付けるものは、古墳時代後期から平安時代にかけて（今から約1,400年前～1,000年前）にかけて行われた河川祭祀跡や、平安時代（今から約1,200年前～1,000年前）の官衙（役所等）的集落跡の発見です。

この度の調査では、縄文時代後・晩期の遺物包含層、弥生時代中期の竪穴住居跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代と考えられる掘建柱建物跡、中世の井戸跡などが発見されました。

本遺跡においては、弥生時代の具体的な生活痕跡がまだまだ明確に分かっていませんので、土偶形容器が出土した弥生時代中期の竪穴住居跡は貴重な発見でした。



諏訪木遺跡位置図

### 3 展示品について

#### (1) 土偶形容器

土偶形容器とは、脚のない立像形の容器です。中空で、頭部が開口しており、注ぎ口のようになっていますので、ここから物を出し入れすることができます。

土偶形容器は、主に福島県から愛知県に至る地域で発見されていますが、これらは、弥生時代前期末から中期前半につくられました。中には、赤ちゃんの骨や歯が入っていた例や焼けた人骨が灰の中から出土した例があることから、一種の蔵骨器と考えられています。縄文時代には女性をかたどった土偶が存在し、多産や誕生を願ったものと考えられていますが、弥生時代の土偶形容器は、蔵骨器という性格をもつことから、強く生命の再生を願う意味がこめられている、祖先を表現したものと考えられています。

本遺跡出土の土偶形容器は、器高約 18 cm、<sup>あご</sup>顎の一部が欠損<sup>けつそん</sup>しますがほぼ完形です。出土状況は、その上に弥生土器壺が覆<sup>おほ</sup>いかぶさり、頭部をほぼ北にして仰向け<sup>あおもむ</sup>の状態で住居床面から出土しました。中はほぼ中空の状態<sup>あそ</sup>で、頭部（口縁部）付近のみを塞<sup>ふさ</sup>ぐように土がみられた<sup>ふさ</sup>ただけでした。よって、用途として一種の蔵骨器とされる状況は確認できませんでした。なお、頭部の一部（後頭部）は片口状をなしていません。頭部及び底部外面には赤彩が残り、顔面<sup>ほほ</sup>頬部に施文された縄文は黥面<sup>げいめん</sup>（顔へのイレスミ）を表現しているものと考えられます。また、<sup>けい</sup>頸部には横位の簾状文、腹部には刺突文<sup>しとつ</sup>が一つ、あたかも臍<sup>へそ</sup>のように施されています。腹部に両手を添えており、全体としては大きなお腹をかかえたユーモラスな人物といった印象です。

なお、土偶・土偶形容器は、隣接して所在する前中西遺跡<sup>まえなかにし</sup>、池上遺跡<sup>いけがみ</sup>においても出土しており、前者で5点、後者で1点出土していますが、いずれの資料も破片や欠損資料で、ほぼ完形の資料はみられません。

#### (2) 弥生土器壺

弥生土器壺は、器高約 27.5 cm、弥生時代中期後半の栗林式系土器であり、その特徴である鳥脚形の記号がわずかに胴部に確認できます。



土偶形容器出土状況(上が北)



土偶形容器(左)、弥生土器壺(右)出土状況

平成26年9月29日発行

編集・発行：熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）